

学校法人番号	231030	学校法人名	足立学園		
大学名	愛知文教女子短期大学				
事業名	「食物アレルギーの子どもを守る」大学へ—保育所における職種間連携を含む食物アレルギー教育推進事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	510人
参画組織	生活文化学科食物栄養専攻、幼児教育学科第1部および第3部、ブランディング事業委員会、SD委員会、FD・学術研究委員会、広報委員会、研究ブランディングプロジェクトチーム				
事業概要	<p>本学は保育士と栄養士の養成施設である。本事業では保育所での食物アレルギー事故防止の観点から、保育士と給食担当者(栄養士等)への職種間連携を含む「食物アレルギー教育」内容と教授法を研究により明らかにする。これは校祖足立閻励の「真心を通わせることで「信用」「信頼」が生まれる」という信念を象徴していることから、「食物アレルギーの子どもを守る人を育成する」という本学のブランド確立に向け全学的に推進する。</p>				
①事業目的	<p>【社会的ニーズ】アレルギー疾患を有する子どもの増加に伴い、保育所での対応が求められているが、食物アレルギーに関しては「誤配・誤食」事故が起きているのが実情である。理由として保育室と給食室間のコミュニケーション不足が考えられ、ガイドラインの徹底とともに「事故防止」のためには、保育士と給食担当者の食物アレルギーへの正しい理解と連携が不可欠である。</p> <p>【研究ニーズ】食物アレルギー教育が保育士および栄養士養成施設においてどの程度実施されているかは明らかになっておらず、「専門職連携」に関しても保育分野で求められる協働の在り方や方法、教育方法などは研究されていない。</p> <p>【自大学と研究テーマの関連性】本学は同キャンパス内で保育士と栄養士の専門職人材を養成し、社会に輩出しているが、ここに教育・研究のフィールドがある。食物アレルギー教育に関しては平成15年より学内で開催している、食物アレルギー対応クリスマスパーティ「みんないっしょのクリスマス」が基盤となっており、幼児教育学科においても平成26年から「乳幼児食物アレルギー演習」を導入、学生の教育成果に関する研究を学会等で報告している。本事業の推進により、「食物アレルギー教育」を発展させ、保育士および栄養士養成施設における教育の充実と発展に寄与し、保育所における食物アレルギー事故減少に貢献できる。</p> <p>保育士と給食担当者の有機的な職種間連携を含む「食物アレルギー教育」の内容と教授法を開発することで、これをリカレント教育や一般市民への生涯学習としても展開する。本学独自のこの事業を通して「食物アレルギーの子どもを守る」人材を育成する大学として「食物アレルギー教育」の拠点となることを目指すものである。</p>				
②平成28年度の実施目標及び実施計画	<p>ブランディング事業委員会が中心となり、本事業の情報発信、連携体制を強化し初年度の自己点検により評価を行う。プロジェクトチーム(保育所、養成施設、保護者、ブランディング)は実態調査やニーズ調査、成果測定、ブランド調査等を実施、研究推進に必要な量的・質的データを収集・集積し、解析する。</p> <p>・公開活動報告会の実施 ・愛知県内保育所実態調査 ・現行の食物アレルギー教育の効果測定 ・「みんないっしょのクリスマス」参加者(保護者)への聞き取り調査 ・食物アレルギー研究会における研究発表 ・ブランディング事業選定リーフレットの作成 ・事業キャラクター(ロゴ)の選定 ・ルーブリック評価セミナーのFD研修会での実施</p>				
③平成28年度の事業成果	<p>【研究・教育】本学が食物アレルギー教育に着手した年度に遡り、その教育効果と現在の職場での職種間連携に関するアンケート調査を行うための「卒業生アンケート」の実施計画作成と質問内容の検討を行った。また、愛知県内保育所実態調査に向けた準備として、業務委託会社と調整を行った。</p> <p>「公開事業報告会」を開催し、大学、保育関係者、本学学生を対象に、これまでの本学の食物アレルギーに関する教育・研究の報告を行った。(平成29年2月25日中日新聞掲載)</p> <p>ルーブリック評価に関する基礎知識と導入方法について、外部講師を招いてFD研修会を開催した。(平成29年3月8日)</p> <p>「食物アレルギートレーニングルーム」設置のための計画作成と業者選定を行った。</p> <p>【大学ブランディング】本事業選定紹介リーフレットを作成し、事業ロゴを選定した。また、本学の取り組みなどの認知度を調査するアンケートの作成に着手した。</p>				

<p>④平成28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 【研究・教育】事業計画書に則り、「卒業生アンケート」の実施に向け、質問紙の作成が完了した。保育所実態調査に関しては、調査規模が大きくなることから調査方法を検討中である。「公開事業報告会」には、保育関係者だけでなく、行政サイドからの参加も実現し、本事業の協力的体制も確認できた。また、報道関係者も参加し、報告会の様子が新聞掲載された。「みんないっしょのクリスマス」参加者(保護者)への聞き取り調査は、後日郵送によるアンケート調査に振り替えて実施したことにより、詳細な結果を得ることができた。 【大学ブランディング】事業計画書に則り、本事業を紹介するリーフレットを作成し、学外へ向け配布を始めた。また、当初計画していた事業キャラクターではなく、印刷物に広く使えるロゴを作成する方向に改め、選定の上決定した。本学の存在や取り組みの認知度を調査するアンケートに関し、質問項目の設定までを年度内に行った。 ◇課題 28年度に計画していた事業のうち、年度内に完了する予定であったものの一部は、計画や準備に着手したところで次年度へ継続となっている。29年度は更に調査結果の分析などが計画されていることから、できるだけ早く進める必要がある。</p> <p>(外部評価) 本事業の外部評価委員である先生方に28年度の取り組みについて評価をしていただいた結果は以下の通りである。 ・他に例を見ない先進的な取り組みであるだけに、今後に期待する ・29年度に事業内容が集中しているが、学内調整をうまく行ってぜひ実現して欲しい ・事業に関する評価方法をさらに充実させるとよい ・これまでの積み上げ(食物アレルギー対応パーティの開催)を大切に、今後につなげて欲しい ・規模を大きく、展開していただくことを望む</p>
<p>⑤平成28年度の補助金の使用状況</p>	<p>【平成28年度私立大学等経常経費補助(特別補助)】 上記支援のもと、以下の事業に関連した経費を適切に執行した。 ・「卒業生アンケート」実施 ・「公開報告会」開催 ・「みんないっしょのクリスマス」参加者(保護者)アンケート調査 ・ブランディング選定リーフレット作成および事業ロゴ作成 ・「食物アレルギートレーニングルーム」設置のための施設改装計画 ・関係学会、研修会への参加</p>